

日本特殊陶業グループ

CSR Report 2015

CSR 報告書 <ダイジェスト版>





1 航空機用プラグ

過酷な環境下で、
安全・確実な
飛行に貢献



見えないところで、 見える効果を 発揮しています

私たちの製品は、小さなモノが多いのですが、
実はあなたの暮らしに、社会に、
そして環境に大きく貢献しています。

4 セラミック工具

摩耗の少ない切削工具で
質の高いものづくりに貢献



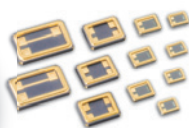
5 ジルコニア酸素センサ

空燃比制御の中核部品
として排気ガスの
クリーン化に貢献



2 水晶デバイスSAW フィルタ用パッケージ

超小型・薄型を実現し、
通信機器の小型・軽量化に貢献



3 イリジウムプラグ

優れた着火性と耐久性で、
低燃費に貢献



6 骨補填材(バイオセラミックス)

先端医療の現場で、
骨折や骨欠損の修復に貢献



CONTENTS

1 私たちの主要製品

3 私たちの事業活動

5 トップメッセージ

7 私たちのCSR

9 特集

➡ 9 「新化」するニットク①
新製品・新事業で世界の
皆さまに新たな価値を提供

➡ 11 「新化」するニットク②
タイにおける
CSR活動の紹介

13 CSR推進活動の目標

15 ステークホルダーへの責任と行動

- 15 🚚 お客様とともに
- 17 🏢 株主・投資家の皆さまとともに
- 18 🤝 お取引先とともに
- 19 👥 従業員とともに
- 23 🌍 地域社会・国際社会とともに

25 地球環境への責任と行動

- 25 🌱 環境を守るために

29 マネジメント

- 29 コーポレートガバナンス/コンプライアンス
- 30 リスクマネジメント

事業内容

自動車関連
事業

- ・プラグ
- ・センサ

テクニカル
セラミックス関連
事業

- セラミックス
- ・半導体
パッケージ/基板
- ・機械工具
- ・ファイン
セラミックス

編集方針

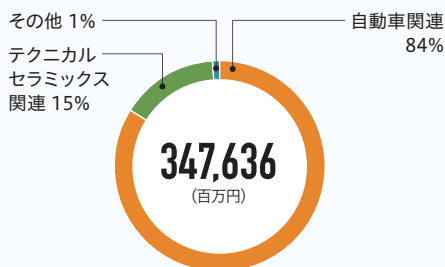
『CSR報告書2015』はさまざまなステークホルダーの
皆さまに、日本特殊陶業グループのCSR活動を知って
いただきたいとの想いを持って編集しています。
詳細な情報はウェブサイトをご覧ください。

<http://www.ngkntk.co.jp/csr/>

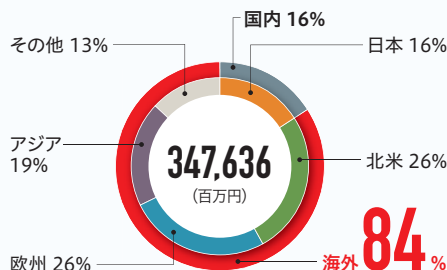
世界各地で、 地域と地球に貢献しています



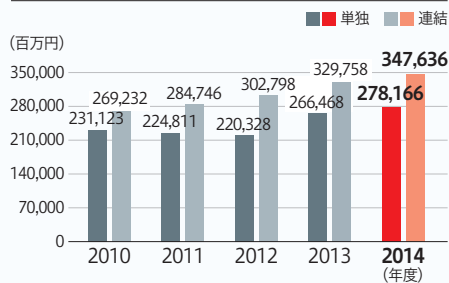
セグメント別売上高



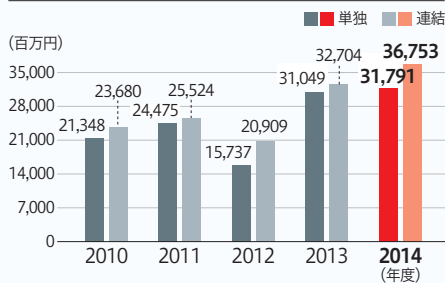
海外売上高比率



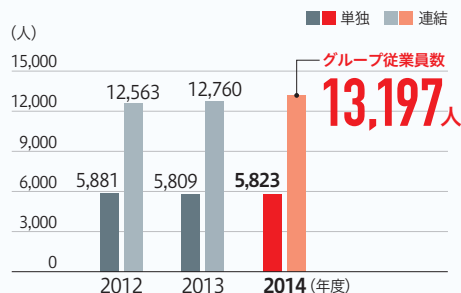
売上高



当期純利益



従業員数



会社概要 (2015年3月末現在)

社名	日本特殊陶業株式会社
本社	名古屋市長瀬区高辻町14-18
創立	1936年(昭和11年)10月26日
資本金	478億6,927万円
事業内容	1. スパークプラグおよび内燃機関用関連品の製造、販売 2. ニューセラミックスおよびその応用商品の製造、販売、その他
グループ	子会社36社(国内10社、海外26社) 関連会社7社

日特進化論の達成に向けて ～「新化」最終年の取り組み～

日本特殊陶業株式会社
代表取締役社長 社長執行役員

尾堂 真一

日特進化論

日本特殊陶業グループは2010年度に2020年のあるべき姿としての長期経営計画「日特進化論」を策定しました。『ものづくり企業』『高収益率企業』『発展的企業』『人“財”企業』であることを目指し、これらを実現することで世界中の皆さまに真の価値「真価」を提供していきたいと考えております。日特進化論のプロセスを3年ごとに「深化」「新化」「進化」のステージに分け、2012年度までの「深化」では、会社基盤となる組織体制や風土改革に力を入れ、執行役員制度の導入、新人事制度の策定に取り組みました。

2013年度からスタートした「新化」の3年は、基本方針を「経営資源を最大限に活用し、最終ステージの「進化」に向けて、新規事業領域・分野への果敢なる挑戦を実践する」と定め、「深化」の3年で培った基盤をベースに「意思決定」と「執行」のスピードを上げ、新商品、新製品の立ち上げに向けて取り組んでいます。

日特進化論「進化」に向けて

本年2015年度は、日特進化論の「新化」の最終年度を迎えます。現在、「プラグ・センサ事業の一層の強化」「不採算事業の統廃合・再構築」「新商品・新規事業の早急な事業化」

長期経営計画「日特進化論」の全体像



を当社が取り組むべき最重要課題として位置付け、確実に計画を遂行しています。

具体的には、2015年2月に日本セラテック社の全株式を取得することを決定しました。半導体製造装置部品の領域で、日本セラテック社の高い技術力と少量多品種でのコスト競争力を活用することができ、当社にない製品ラインアップの拡充も期待できます。これらと当社が保有している海外販売ネットワークや素材からの技術開発力を合わせることで、両社のシナジーを実現できると判断しました。今後、成長が見込める半導体製造装置部品ビジネスにおいて新たな価値を提供していきます。

また、2015年5月に米国のUCI Holdings社からWells社の事業の全株式を取得することを決定しました。当社は自動車関連事業をさらに強くするためにさまざまな可能性を検討し、中でも当社の強みの1つである全世界を網羅している販売網の活用方法を探ってきました。その中で、米国補修用市場のリーディングカンパニーであるWells社の事業を取得することで、製品ラインアップを拡充できると判断しました。自動車関連事業のさらなる強化に努め、新たな挑戦を続けていきます。

新規事業としては、「環境・エネルギー」、「医療」、「次世代自動車」を中心に経営資源を投入しています。中長期戦略における医療分野の足掛かりとして、ベンチャー企業である米国スパイロメトリックス社との提携を決定し、既存のセンサ技術を活かした新たな製品の創出を目指します。引き続き「新製品・新ビジネスの立ち上げ」に取り組んでいきますが、グローバル競争に勝つため、ものづくり現場だけではなく、間接部門も含めた全社生産性の向上、そしてそれらの活動を支える「人“財”」の育成についても積極的に取り組んでいきます。

CSR経営の推進

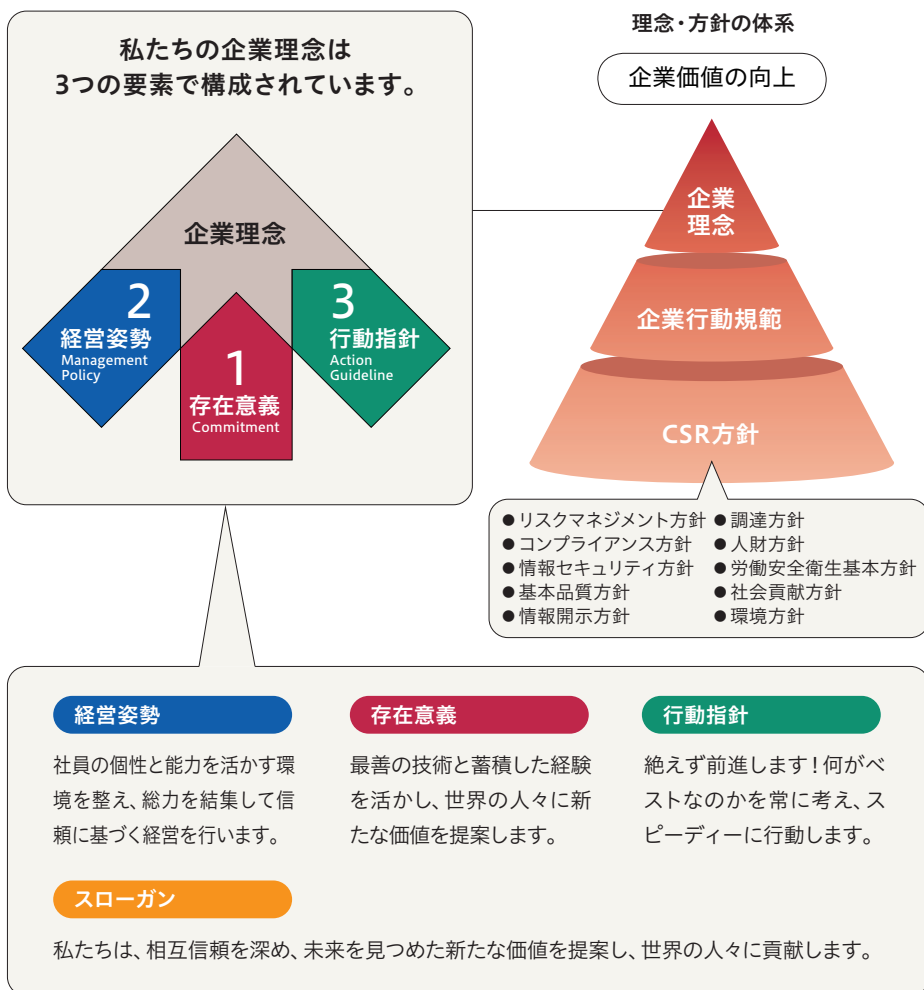
日特進化論を実現し、持続的発展を遂げるために、グループ全体のガバナンス体制を充実させ、CSR方針に基づき、コンプライアンスの意識向上、危機管理をはじめとした重要リスクへの対応を着実に実行しています。しかしながら当社は2014年度、過年度の取引において、米国と韓国で競争法・独占禁止法違反と認定されました。当社はこの事態を厳粛に受け止め、再発防止プログラムを策定してグループ全体で周知徹底を図っていきます。

また、地球環境保全のためCO₂排出量の削減や環境配慮製品の開発など地球温暖化対策の推進を積極的に行うとともに、当社グループの理念や方針に則った社会貢献活動を継続的に実施していきます。当社グループは企業としての社会的責任・説明責任をこれからも果たしていく所存ですが、今後も重要課題選定のプロセスやその進捗など、ステークホルダーの皆さまへ分かりやすい情報開示に繋げていきたいと考えています。

この度、2014年度の活動をまとめた『CSR報告書2015』を発行いたしました。

皆さまの忌憚ないご意見・ご感想をお寄せいただければ幸いです。

私たちは、企業理念を実現するため、 企業行動規範、CSR方針に基づいて 行動します



重要なお知らせ

自動車部品に係る米国司法省との司法取引・ 韓国公正取引委員会からの発表について

当社は2014年8月に米国司法省との間で、自動車用スパークプラグ及び酸素センサの一部取引に関して、米国反トラスト法(独占禁止法)違反があったとして、罰金を支払う等を内容とする司法取引に合意しました。

また、2015年3月には韓国におきましても、同国の独占規制及び公正取引に関する法律に違反する行為があったとして、韓国公正取引委員会より課徴金を課す旨の発表がありました。当社グループは、グローバルに事業活動を展開しており、今後も他の国や地域で独占禁止法違反の可能性に関連して、訴訟、規制当局による措置その他の法的手続の当事者となるリスクがあります。これら一連の件に関しては株主さまをはじめ、ステークホルダーの皆さまには多大なるご心配をお掛けしましたことを深くお詫び申し上げます。

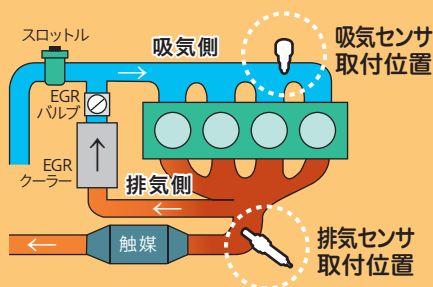
当社グループといたしましては、法令遵守を重要な経営課題と位置付けておりコンプライアンス体制を整備してまいりましたが、この度の事態を厳粛に受け止め、再発防止とコンプライアンス体制のさらなる強化に取り組み、信頼回復に努めていきます。具体的には、競争法法務・コンプライアンス対策チームを立ち上げ、改めて全グループ役員、従業員に対し特別セミナー教育を実施する等の啓蒙活動、また海外グループ会社を含め順次体制監査を行うことにより、競争法(独占禁止法)コンプライアンスの周知徹底を図る所存です。

「新化」するニットク① 新製品・新事業で

企業理念の実現のために、当社グループはさまざまな分野で新たな価値を提供します。

新製品 温暖化・大気汚染を抑制する「吸気酸素センサ」を開発

当社は、世界に先駆け、多くの使用実績を持つ車載用排気酸素センサの技術を活用した「吸気酸素センサ」を開発、製品化を決定しました。排ガスの再循環を行うEGRシステムを精密に制御することで、さらなるディーゼルエンジンのNO_x削減、ガソリンエンジンのCO₂削減に大きく貢献。今後、量産に向けた準備を進め普及拡大に努めていきます。



新事業 環境問題の解決に貢献する燃料電池事業を推進



業務・産業用の次世代発電技術として実用化が迫る燃料電池。当社は2014年、固体酸化物形燃料電池(SOFC)の発電要素である「円筒セルスタック」の量産に向け、三菱日立パワーシステムズ㈱と業務提携しました。低炭素社会の実現へ貢献すべく、両社の技術を融合させ、2017年度の生産ライン構築を目指して取り組み中です。

新製品 医療現場の負荷をより軽減する製品の改良を促進

骨欠損部や骨折部などの骨移植が必要な部位には、ペースト状の骨補填材が使用されます。「セラペースト」は当社が開発したペースト状の骨補填材です。

従来品は、混練棒を回転させ混練する方式ですが、混練にかかる作業負荷の軽減が課題でした。これを解決するため、混練棒を往復させるだけで混練を可能にする「セラペースト(改良品)」を開発し、医療現場の負荷軽減に貢献しています。



世界の皆さまに新たな価値を提供

新事業推進エンジン「DNAプロジェクト」を推進

DNA(Dynamic New Approach)プロジェクトとは、2009年からスタートさせた新事業の推進エンジン。従来の研究開発部門のアプローチとは別に、全社を横断して新事業を生み出すための新たな取り組みです。

2014年春に開始した第4次DNAでは、若手からベテランまで、さまざまなスキルやアイデア、そして熱い想いをを持った約30名の有志が集結。週1回ほどの頻度で合流し、自主的に結成したチームごとに社内外での調査を進め、新事業提案のプランを練り上げました。

2015年春の最終審査を経て、現在複数の案件が事業化に向けて検討が進んでいます。本来の目的である新事業創出は勿論のこと、人材育成や組織文化の醸成に繋がる未来の日特グループをリードしていくプロジェクトとして飛躍が期待されます。



プロジェクトメンバーの声

活動を通じて 得られたものは大きい

センサー事業部 第2技術部
多比良 大輔

自分がやってみたいアイデアを実際に形にする機会を得られとても感謝しています。

事業を具現化する難しさ、詳細な検討後の想定顧客へのヒアリングや幹部への提案など、通常の業務では経験できない事業提案の一連の流れを体験できたことは、これからの仕事に取り組むうえで、自分にとっても大きな財産になると思います。



「新化」するニットク② タイにおけるCSR

当社グループでは、1974年にサイアムNGKスパークプラグ(株)がはじめてタイに進出し、2015年で41年が経過しました。現在は当地に3社が拠点を構え、新興国を中心にますます拡大する需要に備えて、グローバルな生産体制の構築を進めています。特集2ではアジア地域の中核拠点として、今後も活躍が期待されるタイでの活動をお伝えします。



サイアムNGKスパークプラグ(株)



(株)スパークテックタイランド



タイNGKスパークプラグ(株)

リスク対応とコンプライアンス

タイでは2011年に大規模な水害が発生し、現地の日系企業も大きな被害を受けました。当社グループは幸いにも被害を受けませんでしたが、事業継続計画(Business Continuity Plan)を策定し、万一リスクが発生した場合の被害軽減と早期復旧に備えています。

また、お客様、お取引先などの公正で透明な関係を維持するために、競争法をはじめとしたコンプライアンス教育を定期に開催し、従業員の意識向上を図っています。



コンプライアンスの勉強会

活動の紹介

人と環境に優しく、リスクにも強い工場を目指して

2015年4月から操業を開始した(株)スパークテックタイランドでは工場建設の際、環境や安全などに配慮した2つのコンセプトを掲げました。1つ目は「人と環境にやさしい工場」です。スポーツエリアなどの憩いの場を設けたことにより、従業員が働きやすい環境を整えています。また、高い天井による暑熱対策や自然換気の利用、太陽光による採光など、省エネやコストを考慮した環境にも優しい工場となっています。2つ目は「災害に強い工場」です。地域の最大降水量を考慮した雨水放流対策と外部からの雨水流入防止対策を講じて、大雨や洪水によるリスクを回避しています。



自然採光を用いた工場



工場内のスポーツエリア

社会貢献・環境保全活動にも積極的に参加

地元赤十字への献血協力や、エイズ患者支援を行う財団への寄付を継続的に実施しています。また、タイNGKスパークプラグ(株)、サイアムNGKスパークプラグ(株)では地元労働福祉管理局が推進する反薬物活動に参加しており、両社では従業員全員が薬物反応なしという認証を受けました。

環境分野では従業員が参加して海岸の清掃や海岸沿いでの植樹活動に積極的に参加しています。



植樹活動の参加者たち

植樹活動参加者のコメント

私たちの工場のある地域には、マングローブの森がある海岸線があります。そこでマングローブの保護のために植樹活動を行いました。この活動によって、私たちは環境保護に貢献でき、また他部署の人たちと知り合うことができました。

当社グループの重要課題を特定し、30項目を設定しました

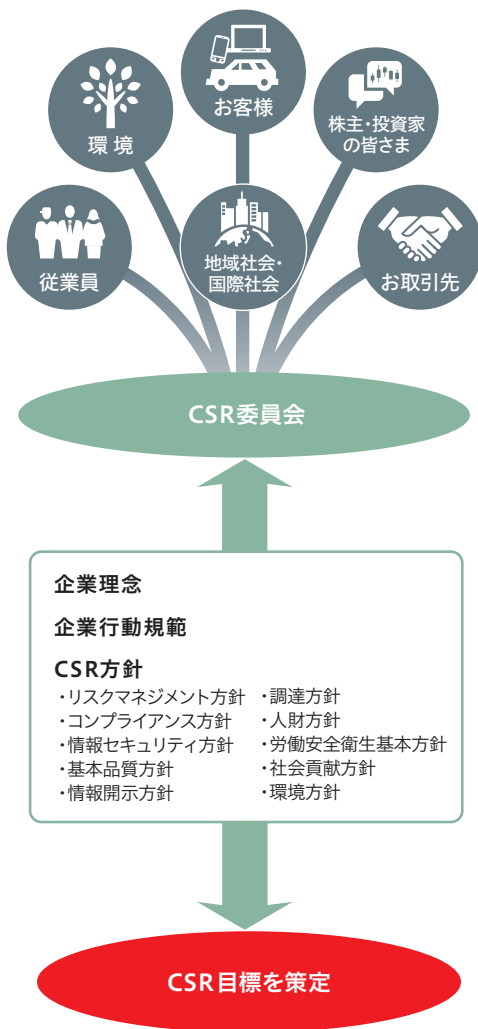
企業理念、企業行動規範、CSR方針をもとに
ステークホルダーの期待・要請に配慮したCSR目標を設定。

企業理念に基づいて当社グループの経済・環境・社会活動をグローバルな視点で再点検し、社会に説明責任を果たすことで、企業価値の向上、ひいては社会の持続的発展に寄与することを「私たちのCSR」と考えます。

2010年に設置したCSR委員会は、CSR方針を実践するために年度重点課題を決定するほか、各専門委員会、各部署のCSRに関する活動の把握、評価、提言を行い、全体最適なCSR活動による基盤強化を目指しています。

私たち日本特殊陶業グループは、お客様、株主・投資家の皆さまをはじめとするさまざまなステークホルダーと関係し、支えられて成り立っています。そのため、当社グループが今後も持続可能な企業であるためには、ステークホルダーの皆さまの期待・要請に応えながら、ビジネスの成長を目指していく必要があります。

2014年度の目標設定にあたっては、各専門委員会・部署がステークホルダーの皆さまからの期待・要請を認識したうえで、企業理念、企業行動規範、CSR方針に照らし合わせて目標を起案し、CSR委員会で承認しました。



CSR目標

取り組み分野		中期目標 (2015年度目処)	担当部門	頁
マネジメント	全社的CSR マネジメント	・グローバルでのCSRのPDCA推進 ・グローバルでのCSR浸透活動の推進	CSR推進室	▶13p
	コンプライアンス			
	全社的 推進体制	・グローバルでの推進体制の整備と違反対応の徹底 ・未然防止活動の実施 ・意識調査などによる定期的な実態把握	コンプライアンス 委員会	▶29p
	機密管理	・全社的機密管理のPDCAの継続的改善およびグローバル展開	機密管理委員会	
	輸出管理	・輸出管理の専門教育と監視体制の強化	輸出管理委員会	
	情報セキュリティ	・グローバルでのネットワークセキュリティ標準の策定	情報システム部	
	知的財産権 の尊重・保護	・知的財産権に関する機密管理・コンプライアンス体制の確立	知的財産部	▶30p
	リスクマネジメント			
	BCP/BCM	・全社のBCPの再点検・整備とBCMへの移行 ・グローバルでの調達BCPの構築 ・IT-BCP施策の実践	BCM.WG 調達本部 情報システム部	▶30p
	全社的リスク マネジメント	・当社に適合した全社のリスクマネジメントの構築	リスク管理WG	
お客様とともに	安全・品質	・ものづくり力強化のための全社的な製品、業務、仕組みの継続的改善	全社品質委員会	▶15p
株主・ 投資家の 皆さまと ともに	情報開示	・財務報告に係る内部統制状況の維持・向上	経理部	
		・グローバルでの分かりやすく親しみやすい情報発信	広報室、CSR推進室	▶17p
		・ステークホルダーの期待と社会トレンドの変化を捉えた情報発信	CSR推進室	
従業員と ともに	雇用・人権	・経営戦略・経営方針を実現するための人事制度・教育体系の確立 ・職能別人材育成システムの構築 ・人材採用マネジメントの確立	人事部	▶20p
		・グローバルでの人材登用の推進		▶19p
		・ダイバーシティの推進		▶20p
	労働安全衛生	・新リスクアセスメントの浸透と定着 ・安全に行動できる人づくりとグローバルでの安全文化の醸成 ・健康リスクを最小化する体制・意識づくりとシステムの構築	安全衛生委員会	▶22p
		・安全に精通した人づくりと教育体系・システムの構築		▶21p
お取引先と ともに	CSR調達	・お取引先評価の新基準の運用 ・グローバルでのCSR調達の展開	調達本部、CSR推進室	▶18p
地域社会・ 国際社会とともに	社会貢献	・社会貢献活動の充実	総務部門、CSR推進室	▶23p
環境を守るために	環 境	・エコビジョン2015の達成と環境経営のグローバル化	環境委員会	▶26p



お客様とともに

Good!

Performance — 職場のCSR活動

補修などのアフターマーケットでも グローバルな顧客満足を高めるために

私たちは自動車の補修市場でも適切な技術や知識に基づく質の高いサービスを提供し、顧客満足度を高めるさまざまな活動をグローバルに推進しています。

確かな技術・知識を習得するため、国内外の営業スタッフに対する技術知識教育や海外技術営業スタッフの育成に注力しています。また、既存ニーズの維持・拡大、新規ニーズの探求・充足や、技術情報、新車・モデル情報などの収集・提供といった市場調査活動も促進。さらに、販売促進活動として、国内外における顧客向け技術講習会の開催、ホームページへの顧客問合せ対応やクレーム対応、顧客レース活動への技術サポートなどきめ細かいサポートにより、さらに顧客満足度を高める活動に取り組んでいます。



お客様先での不具合対応
(タイ)



修理工場でのサポート
(インド)



自動車部品販売店でのサポート
(インド)

サービス担当者の声

お客様の声を聞き、日々改善を意識して

アフターマーケット技術サービス室では、市場のお客様の商品・サービスに対する満足度と理解度の向上を目指しています。

その一例として、技術講習会の開催支援を行っていますが、講習内容に関しては毎回満足度調査を実施し、結果を講習内容に反映することにより、顧客満足度を向上できるよう、日々改善に努めています。

営業本部 アフターマーケット技術サービス室
後藤 大輔



■ ものづくりの質を高める人“財”育成

「ものづくりはひとづくりである」として人“財”育成に取り組んでいます。品質管理、管理技術手法、NQC活動、品質マネジメントシステム、計測管理などの教育プログラムを整え、学んだ知識を活用するための実践指導・支援を実施しています。品質意識の向上、動機付けを、新入社員教育をはじめ、品質展示会、講演会などで行っています。



新入社員研修



品質統括部
木村 祐二

研修担当者の声

自ら考え実施する参加型研修

新入社員研修では、新入社員が自ら考えて実施する参加型研修を実施しています。「実際に手を動かすことで非常にわかりやすかった」との意見が多く、参加型研修の有効性を実感しています。今後もさまざまな工夫を凝らした研修で、従業員の品質意識向上、製品・仕事の質向上に貢献したいです。

私の
CSR
アイテム

品質の基礎知識が
わかるテキスト



■ QCサークル東海支部(外部団体)支部長会社を担当

QCサークル東海支部事務局の声

この貴重な経験をNQC活動に活かして

東海支部の事務局業務では、他地区の幹事・事務局の方と連携しながら支部行事を運営し、QCサークル活動の普及拡大に努めてきました。この業務を通じて、支部発表会の運営やQCサークル活動の推進・運営方法などのノウハウを学ぶことができました。これらの経験を活かしてNQC活動の活性化に貢献していきます。

品質統括部
阿部 高博



私の
CSR
アイテム

外部団体活動から
学んだ知識、ノウハウ

(一財)日本科学技術連盟では、QCサークル活動推進のため全国に9つの支部を設けています。当社は、愛知・岐阜・三重・静岡地区からなるQCサークル東海支部の2014年度支部長会社を1年間務めました。活動では、年度スローガン「やりがいと感動を味わえる活動により職場の活性化を図ろう!」を掲げ、幹事会社63名の方々とともに方針・行事策定し、普及拡大に努めました。



株主・投資家の皆さまとともに

Good!

Performance — 職場のCSR活動

情報格差をなくし、国内外へ各種情報をタイムリーに発信

国内外への情報開示をフェアに行うために、決算関連資料およびプレスリリース資料の日本語版および英語版を作成し、ウェブサイトと同時に掲載しています。また、日々のIR活動においても、国内のみならず、海外の株主・投資家の皆さまとも積極的にコンタクトを取り、スピーディーかつ正確な情報開示に努めています。今後も「フェアな情報開示」に重点を置き、国内外の株主・投資家の皆さまのさまざまなニーズにお応えできるよう、体制を整えていきます。



英文の決算説明会資料と
ニュースリリース

■ 株主・投資家の皆さまに当社を知っていただく活動を実施

当社は株主・投資家の皆さまに「日本特殊陶業」を正しく、深く知っていただくために会社説明会を実施しています。2014年度も日本各地を訪問し、株主・投資家の皆さまの「生の声」をいただいています。

今後も株主・投資家の皆さまとのコミュニケーションを重視し、その促進に努めていきます。

IR担当者の声

日本特殊陶業を正しく伝えるために

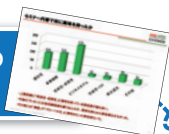
メディアへの露出が増加するにつれて、当社を応援していただける声や逆に厳しい声を頂戴する機会も増えました。今後もさまざまなご意見に耳を傾け、日本特殊陶業を「正しく、深く、永続的に」ご理解していただくための活動を強化していきます。

広報室
松野 力樹



私の
CSR
アイテム

株主・投資家の皆さまの
声を集約したデータ





お取引先とともに

Good!

Performance — 職場のCSR活動

お取引先向けセミナー・現場実践コースの充実

当社ではお取引先向けに工程改善や、QC、労働安全衛生、環境などをテーマとしたセミナー、およびお取引先の製造現場に入って改善に取り組む現場実践コースを開講しております。また、より多くのお取引先に活用していただけるよう、その講座の充実を図っています。

この活動は、お取引先での人材の育成を進め、より力のある企業を目指していただく一助となるよう実施しているもので、昨年度は初心者向け講座を新設し、全23講座を開催しました。これからもお取引先と一緒に、ものづくり力の向上を目指します。



セミナーの様子



現場実践コースの修了式

現場実践担当者の声

意志あるところ道は開ける

お取引先の現場実践では、単なる手法の伝達ではなく、参加者の自由な意見交換や自主性を尊重し、各自の意識・意欲の向上につなげ、継続性のある活動となるよう心がけています。

調達本部 取引先開発室
前田 全徳





従業員とともに

Good!

Performance — 職場のCSR活動

人材育成のグローバルな仕組み構築に向け、タイで「アセアン人事会議」を開催

グローバル人事制度や人材育成などを目的とした「グローバル人事会議」を2013年から毎年開催しています。これまでの活動により、海外人材が母国を離れて新しい環境でチャレンジし、他のグループ会社でキャリアを活かせる制度を構築しました。この制度を利用して、出向による人材交流が地球規模で始まっています（海外グループ会社からのクロスボーダー出向）。

さらに活動を拡大するため、2015年はタイで「アセアン人事会議」を開催しました。インドを含むアセアン地域への人材育成に関する統一方針と、仕組みの導入を目的に、会議ではタイ、インドネシア、マレーシア、ベトナム、中東、インドのグループ会社の人事担当者による活発な議論が交わされました。今後もグローバルの意識をもって、人事部門の連携と仕組みの整備に努め、グループ全体で人材育成に取り組んでいきます。



アセアン人事会議の参加者

グローバル人事担当者の声

グローバル人“財”企業を目指して

グループ全体で3分の1を超える海外人材の活躍は、会社の大きな原動力です。それぞれ文化・宗教・慣習は異なりますが、「人“財”育成」という大きな共通目標に向かって、世界各国の人事担当者と議論し、一緒に取り組んでいく仕事はとてもやりがいを感じます。

人事部門のグローバル・ネットワークをさらに充実し、グループ全体で個々の能力を伸ばして活躍できる、環境整備を目指します。

人事部
加藤 智幸



■ 女性活躍推進の取り組みを強化・継続

女性活躍推進を経営戦略としてトップダウンで進めています。2013年度は管理職を中心に研修を実施してきましたが、2014年度は女性を中心に研修を行いました。2013年度に始めた各部署長を推進者としたアクションプランの立案・実施についても、継続することで、部署として活動する意識が高くなっています。



次世代女性リーダー研修の様様

管理職に近い女性主任・係長を対象に、マネジメント、リーダーシップ、経営戦略などを学び、社内役員や他社の管理職との交流を行いました。

活躍支援プログラムの様様

主任を目指す女性が、上司とともに参加し、ワンランク上の課題にチャレンジしました。3月には成果発表会を実施し、社長・副社長の前で取り組み成果を発表しました。



DIAMONDプロジェクトメンバー(前段中央:大塚)

プロジェクトリーダーの声

従業員全員が活躍できる会社を目指しています

当社には優秀な女性がたくさんいます。従業員全員が気持ち良く働ける職場を目指し、想いが実現できる会社になればと思います。

人事部

大塚 悦子



■ 新人事制度を国内グループ会社に展開

2014年4月に全面改定した新人事制度では、多様な人材が育ち、活躍できる環境を整備し、価値創出に向けた取り組みに対して適切に報いていくため、PDCAを重ねながら制度の定着を図っています。

また、国内グループ会社においてもガバナンス強化のため、新人事制度を導入していきます。2015年4月からNTKセラミック(株)と

セラミックセンサ(株)の2社において新人事制度を開始しました。

▼主な新人事制度

- ・職群・資格・役職制度
- ・賃金・賞与・退職金制度
- ・年俸制
- ・評価制度、目標管理制度
- ・雇用継続制度



Good!

Performance — 職場のCSR活動

生産技術部門で導入段階における「設備の安全化」を促進するプロジェクトを推進

製造現場での設備の安全化は製造会社にとって重要な課題です。国内の労働安全衛生法などは勿論、ISO(国際標準化機構)やIEC(国際電気標準会議)などの国際基準に準拠した労働安全への取り組みが求められています。

こうした情勢の中、2013年度より「設備の標準化プロジェクト」として、導入段階における生産設備安全化の強化に取り組んでいます。リスクアセスメントにより危険源の特定と安全性を評価し、リスクに応じた低減方策を実施するとともに、残留リスクの抽出と製造現場への情報提供をしています。このように、設備の導入を通じて安全な職場づくりを推進しています。



設備内のリスクをラベルで伝える

プロジェクトリーダーの声

「災害ゼロ」を目指し安全な設備を提供します

設備の供給者として「災害ゼロ」は目標の一つであり、これを一方的な想いで終わらせず製造現場と共通認識となるよう情報提供の強化を図っています。

今後さらに設計者のスキルアップを図り、リスク低減方策を見直すことで、より安全性の高い設備の提供を目指します。

設備部

野澤 和弘



■ 新リスクアセスメント(RA)の浸透～定着に向けて

職場にはさまざまなリスクが潜んでいます。新RAは設備導入後に職場にて設備や作業に関わる危険源を計画的・客観的に調査・評価し、危なさ度合をリスクレベルという形で見える化するツールであり、2013年度より段階的に拡大中の活動です。リスクの大きさに応じ、優先度を決め、計画的なリスク低減対策と危険箇所の周知などの職場管理対策を実施することにより、安全・安心な職場作りにつなげることが出来ます。



実機を使ったRA実践研修の様子



環境安全部
川北 崇裕

安全衛生担当者の声

RAの浸透～定着を目指しています

RAの実施には現場の第一線で働く作業員一人ひとりのチカラが不可欠です。多くの方に正しいRAの考え方や手法を習得していただくために定期的に「RA実践研修」を開催しています。座学から実機を使った危険源の抽出、評価、残留リスクの管理までを学び、職場でのRAに活用していただきたいです。

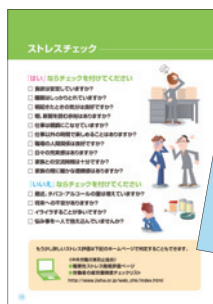
私の
CSR
アイテム

安全衛生の心得が
集約されたテキスト



■ メンタルヘルスケアを強化

社内外の研修によるラインケア教育とともに、職場内では『セルフケアハンドブック』の読み合わせを実施し、疾病の未然防止ならびに自己管理の周知を図っています。また、社内講習会の実施や、不調を感じた従業員が相談できる『健康相談窓口』を開設するなど、心の健康づくりに努めています。



セルフケア
ハンドブック



Good!

Performance — 職場のCSR活動

共通の理念を持ったプロサッカーチームをサポートしています

当社は、「良き企業市民として社会に貢献する」という社会貢献方針のもと、当社と関わりの深い地域である岐阜県をホームタウンとし、「県民チーム」をテーマに地域貢献活動を積極的に推進しているプロサッカークラブFC岐阜と2014年1月にオフィシャルパートナー契約を締結しました。

また、同年7月にはシーズンMVP選手をサポート投票で決める『日本特殊陶業賞』を創設し、チームとサポーターの繋がりの強化や「J1昇格」の後押しの場を作ってきました。これからもグループ会社を含めた全従業員が一丸となり、FC岐阜を盛り上げていきます。



日本特殊陶業サンクスマッチ

FC岐阜「ぎふ元気活動」担当者の声

日特グループの皆さまとともにぎふを元気に！

私たちは『共進共闘！ぎふを元気に！ぎふをひとつに！』というスローガンのもと、サッカー教室の開催、地域イベントへの参加、高齢者施設での体操教室、保育園・幼稚園でのサッカー指導、講演会などの地域社会貢献活動を、2014シーズンは岐阜県内全42市町村で467回実施しており、過去から「リーグトップレベルの活動回数を誇っています。2015シーズンからは、「ぎふ元気活動」と名称を新たにし、ぎふを元気にしたい！という想いのもと、活動をさらに発展させ、日特グループの皆さまとともにぎふを盛り上げていきます。



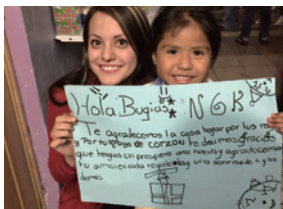
「泥んこサッカー大会」の様子

■ 国内外で地域に根ざした社会貢献活動を展開



中東NGKスパークプラグ(株)

ドバイの環境NGOが主催する「クリーン・アップUAE」に参加し、砂漠の清掃活動を行っています。



メキシコNGKスパークプラグ(株)

孤児院の子供たちに食料や衣服を提供しました。子供たちに大変喜ばれ、感謝状をいただきました。



ブラジル特殊陶業(有)

地元バスケットボールチームにスポンサーとして協賛し、地域スポーツ振興に貢献しています。



日本特殊陶業(株)小牧工場

交通死亡事故数が全国ワーストである愛知県の企業として、事故の少ない街づくりに参加しています。



英国NGKスパークプラグ(株)

傷痍軍人とその家族のためのチャリティラリーに参加し、サポートしました。



米国特殊陶業(株)

地元消防活動への協力として、寄付と会社敷地の開放による訓練場所の提供を行っています。



NTKセラミック(株)

赤十字社の要請で献血活動を実施しました。



日本特殊陶業(株)鹿児島宮之城工場

近隣の中学校・高校の職場体験学習を受け入れ、プラグ出荷用の梱包作業を体験してもらいました。



インド特殊陶業(株)

夏の暑さが大変厳しいインドにおいて、子供たちが学校でも冷たい水を飲めるように、冷水器を寄付しました。



環境を守るために

Good!

Performance — 職場のCSR活動

環境表彰制度を創設

環境活動の活性化を図ることを目的として、国内グループを対象に、優れた環境取り組みに対して表彰する環境表彰制度を開始しました。各地区で実施された改善事例から、より優れた事例が選出され、中央環境委員会の場で社長から表彰を受けます。



宮之城工場周辺の緑化

第1回となった2014年度は、下記4件が表彰を受けました。

地区	部署	内容
小牧工場	センサー製造部	焼成炉のバッチサイズアップ
小牧工場	工務部	改正水濁法の対策工事
宮之城工場	工場全体	緑化優良工場(経済産業大臣賞)
NTKセラミック(株)	管理部	焼成生産計画全工場一括管理

維持管理部門の声

地域と共存する環境づくりを継続推進!

スパークプラグの一貫生産体制が整備された鹿児島宮之城工場は、単一工場としてのプラグ生産規模が世界NO.1です。

私たちはこれまでに、植込みを利用した周辺への騒音対策、天然芝のグラウンドを整備し、地域の高校ラグビー部の試合や合宿などへの提供、工場南側の桜並木と遊歩道を整備してウォーキングを推奨した従業員の健康推進など、環境美化や緑化推進とともに長年にわたってさまざまな取り組みを行ってきました。

それら一つひとつの活動に込められた想いが、今回の受賞に繋がったものと維持管理活動に携わった部門として誇りに思います。

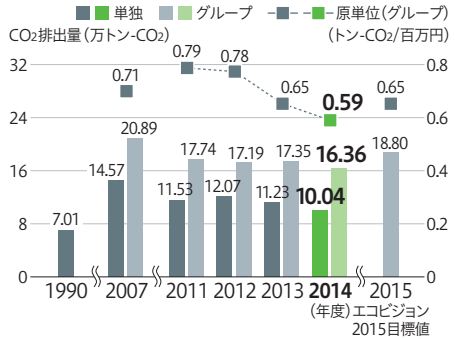


日特アルファサービス(株)宮之城
環境グループ

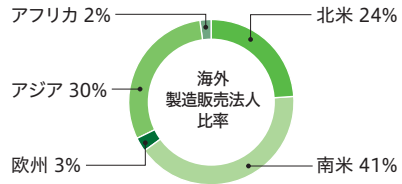
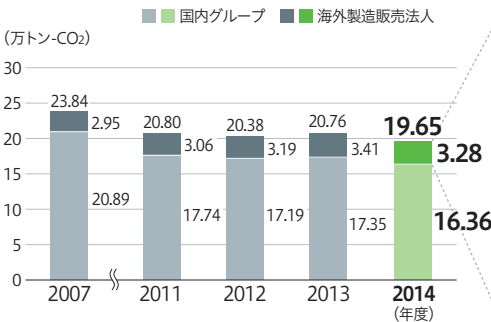
CO₂排出量の2014年度削減目標を達成

2014年度のCO₂排出量は16.36万トンであり、2014年度目標17.5万トンを達成し、2013年度比でも減少しました。また、原単位は2007年度に比べて17%改善しました。製造工程におけるエネルギー転換、設備の更新(省エネタイプ)、製造条件見直しによる省エネ効果、および、提携会社への工程移管などによる事業変動が要因です。

エネルギー起源CO₂排出量の推移 (オフィス・工場)



CO₂排出量の推移 (国内グループ+海外製造販売法人)

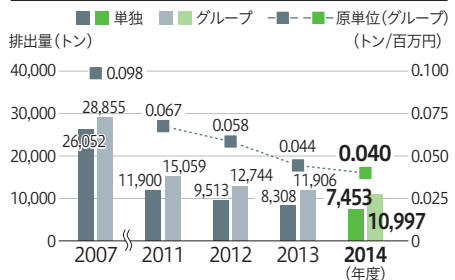


※ 購入電力のCO₂排出係数については、GHGプロトコルの各国ごとの係数を使用しています。燃料関係は日本と同じ係数を使用しています。

廃棄物排出量を削減

2014年度の廃棄物原単位は0.040トン/百万円でした。製造工程におけるセラミック汚泥排出量の削減や、工程歩留り向上などの要因により、2007年度に比べて原単位で59%改善しました。

廃棄物排出量の推移



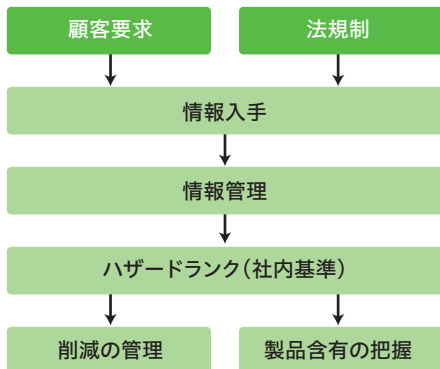


環境を守るために

■ 各種国際規則に対応し、化学物質を確実に管理

欧州のELV指令、RoHS指令、REACH規則をはじめとする規制やお客様からの要求に対応するため、環境負荷物質にハザードランクを設定しています。ランクごとに取り扱い基準を定め、製品非含有と使用削減の管理を徹底しています。

管理体系



電子技術部
西 政範



管理担当者の声

化学物質管理の徹底に取り組んでいます

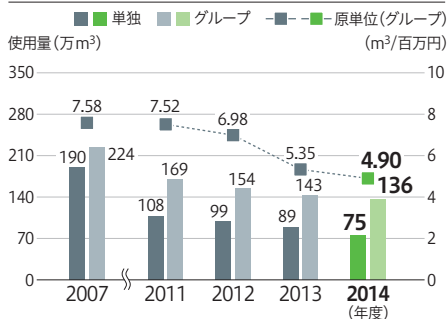
グローバル化が進む中、お客様からの環境負荷物質規制への要求は年々高まっています。

より安全な製品をお客様に提供するため、取り扱い全製品の化学物質管理の徹底と法規制遵守を環境安全部とともに取り組んでいます。

■ 上水・井水の使用量を削減

2014年度の水使用の原単位は4.90m³/百万円でした。製造条件変更による節水、節水効果の高い設備への改造・更新などの要因により、2007年度に比べて原単位で35%改善しました。

上水・井水の使用量の推移



■ 環境配慮製品の開発

寿命向上で省資源を実現する

六角穴加工用工具

「Shaper Duo(シェーパー デュオ)」



Shaper Duo

切削
加工



Shaper Duoは省資源・省エネルギーな点から、日本機械工具工業会より、「環境調和製品」に認定されました。

省資源

工具の寿命比較



超硬合金工具
(従来品)

Shaper Duo

旋盤にて雄ネジ頭部の六角穴加工を行う切削工具には、耐久性が求められます。Shaper Duoは、従来工具であるホルダーと切れ刃が一体となった超硬合金工具と比較して寿命を約30倍まで向上することができ、工具の廃棄物量削減に貢献します。

省エネルギー

メリットは、省資源だけではなく、従来別工程で実施していた雄ネジ頭部の六角穴加工を、小型自動旋盤で軸部を加工した直後に連続して実施することができるようになりました。

これにより工程集約が可能となり、生産における省エネにも貢献します。

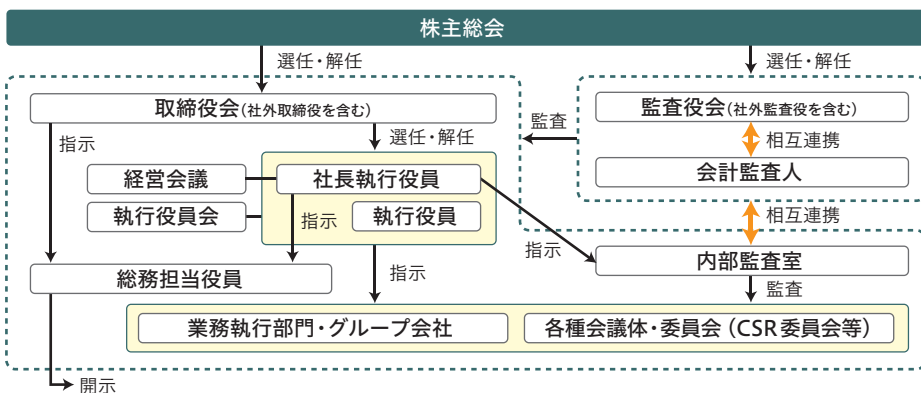
コーポレートガバナンス

■ 社外取締役を選任し、コーポレートガバナンスを強化

当社は、真のグローバル企業になることを目指し、コーポレートガバナンスのさらなる強化に取り組んでいます。その一環として、2013年6月に続き、2014年6月に1名の社外取締役を選任し2名体制としました。

社外取締役は定例ならびに適宜開催する取締役会に出席し、グローバル企業での豊富な経験や高い見識や専門的な知識に基づいて、業務執行の監督ならびに適宜助言をしています。

コーポレートガバナンス体制



コンプライアンス

■ コンプライアンス教育を推進

従業員のコンプライアンス意識を高めるため、従来の階層別セミナーや、「コンプライアンスガイドブック」「コンプライアンス通信」による職場教育を継続しています。また、2014年度には、役員や部門内コンプライアンス推進者向けの外部講師によるセミナーも実施し、全部門とグループ会社での教育・啓蒙を促進しています。



部門内コンプライアンス推進者向けセミナー

■ 模倣品撲滅に向けた取り組みを推進

NGKスパークプラグの模倣品が新興国などを中心に蔓延しています。ユーザーの安全と当社ブランド保護のため、各国の警察や税関と協力し、模倣業者の摘発や模倣品の廃棄処分に取り組んでいます。また、政府機関や業界団体などと連携して模倣品撲滅に向けた啓蒙活動にも積極的に参加しています。



税関との意見交換

リスクマネジメント

Good!

Performance —— 職場のCSR活動

万一の災害に備え、当社グループ従業員に防災グッズを配りました。

2014年4月に国内の当社グループ従業員に対し、防災の必要アイテムである「防災リュックサック」を配りました。中身はヘルメットをはじめ、非常食・飲用水・軍手・マスクなどです。

これらは大規模災害の際に従業員にとって重要なアイテムとなります。出来る限り身の回りに保管して緊急避難時に即時持ち出せるようにしています。



防災リュックサックを職場に設置



防災アイテム

日本特殊陶業株式会社

〒467-8525 愛知県名古屋市長郷区高辻町14-18

<http://www.ngkntk.co.jp>

(お問い合わせ)

CSR推進室

TEL:052-872-6248 FAX:052-872-5999

e-mail: csr@mg.ngkntk.co.jp

(製作にあたって)

本報告書を構成する資材(用紙、インキなど)の購入および印刷は、ISO14001の認証を取得した会社で行いました。また、使用した資材(用紙、インキなど)は、カドミウム、鉛、六価クロム、水銀、ポリ臭化ビフェニル(PBB類)、ポリ臭化ジフェニルエーテル(PBDE類)を含有していません。

刷 版: CTP(Computer To Plate)方式を採用しました。これによりフィルム、フィルム製作に伴う現像液、定着液が不要となり、省資源と廃棄物の発生を抑制しました。

インキ: VOC(揮発性有機化合物)成分ゼロインキを使用し、VOCの発生を抑制しました。また、このインキは印刷インキ工業連合会の自主規制である「印刷インキに関する自主規制(NL規制)」にも準拠しています。

印 刷: 湿し水を使用しない水なし印刷方式を採用しました。これにより、揮発性有機溶剤(イソプロピルアルコール)は使用していません。

用 紙: この印刷物に使用している用紙は、森を元気にするための間伐と間伐材の有効活用に役立ちます。

【対象期間】

2014年4月1日から2015年3月31日

ただし、活動、事例等については、直近のものも含みます。

【対象組織】

● 社会側面：日本特殊陶業株式会社

ただし、国内外子会社の活動等を含む場合があります。

その場合、個別に記載しています。

● 環境側面：日本特殊陶業グループ

・ 日本特殊陶業株式会社

・ 国内の子会社9社および関連会社1社

【発行責任者】

代表取締役社長 尾堂真一

【編集責任者】

CSR推進室長 鶴岡床志

【発行時期】

2015年9月(次回2016年8月予定)

※ ご不要となった際は、古紙リサイクルにお出しください。

